

令和 5 年度予算の概要

1. 会計別歳入歳出予算の規模（別表 1 参照）

一般会計 365 億 1,658 万 7 千円

（前年度比較 8,479 万 1 千円、0.2%増）

特別会計総額（4 会計） 201 億 1,943 万 9 千円

（前年度比較 ▲1 億 7,856 万 2 千円、0.9%減）

企業会計総額（3 会計） 187 億 3 万 6 千円

（前年度比較 9 億 8,960 万 3 千円、5.6%増）

全会計予算総額 753 億 3,606 万 2 千円

（前年度比較 8 億 9,583 万 2 千円、1.2%増）

《注：企業会計の予算総額は、収益的支出と資本的支出の合計額とした。》

2. 一般会計予算の概要

令和 5 年度の予算編成にあたりましては、新しいまちづくりの方針である「子育てしやすいまちづくり」、「貝塚ならではのまちづくり」、「にぎわいのあるまちづくり」、「いつまでも元気で、安全安心に暮らせるまちづくり」を推進し、本市が目指す「魅力かがやき 未来へつながるまち 貝塚」を実現するため、市制施行 80 周年記念事業や J R

東貝塚駅バリアフリー化及び周辺地区の整備事業、ブランディング・シティプロモーション事業、企業誘致推進事業など、未来を見据えた事業に重点配分を行う一方で、行財政改革を着実に実行し、財政の健全性の確保と限りある財源を効率的・効果的に配分することを目的として編成した次第であります。

一般会計の予算総額は、365 億 1,658 万 7 千円で、前年度に比較して 0.2%の増加となっております。これは、主に、新型コロナウイルスワクチン接種事業費が減少したことにより物件費が減少したものの、後期高齢者医療制度事業費の増加により繰出金が増加したことによるものであります。

それでは、予算の主な内容につきまして、順次ご説明いたします。

① 歳入（別表 2 参照）

それでは、まず歳入についてご説明いたします。

市税は、116 億 5,765 万 8 千円で、前年度に比較して 3 億 4 万 1 千円、率にして 2.6%の増加となっておりますが、これは、主に、個人及び法人市民税が増加したこと、及び固定資産税の家屋課税分が増加したことによるものであります。

地方譲与税は、1 億 7,356 万 2 千円で、前年度に比較して 50 万

2 千円、率にして 0.3%の減少となっております。

利子割交付金は、820 万円で、前年度に比較して 380 万円、率にして 31.7%の減少となっております。

配当割交付金は、1 億 2, 200 万円で、前年度と比較して 5, 800 万円、率にして 90.6%の増加となっております。

株式等譲渡所得割交付金は、3, 600 万円で、前年度に比較して 1, 400 万円、率にして 28.0%の減少となっております。

法人事業税交付金は、1 億 9, 600 万円で、前年度に比較して 6, 700 万円、率にして 51.9%の増加となっております。

地方消費税交付金は、21 億 7, 100 万円で、前年度に比較して 2 億 7, 300 万円、率にして 14.4%の増加となっております。

環境性能割交付金は、2, 700 万円で、前年度に比較して 1, 100 万円、率にして 28.9%の減少となっております。

地方特例交付金は、7, 900 万円で、前年度に比較して 537 万 4 千円、率にして 7.3%の増加となっております。

地方交付税は、国の地方財政対策等を勘案して 59 億 9, 748 万 9 千円を計上し、前年度に比較して 3 億 4, 888 万 9 千円、率にして 6.2%の増加となっております。

交通安全対策特別交付金は、1, 287 万円で、前年度に比較して 113 万円、率にして 8.1%の減少となっております。

分担金及び負担金は、1 億 2,167 万 3 千円で、前年度に比較して 4,125 万 7 千円、率にして 25.3%の減少となっております。

使用料及び手数料は、3 億 9,279 万 1 千円で、前年度に比較して 261 万 6 千円、率にして 0.7%の減少となっております。

国庫支出金は、68 億 158 万 2 千円で、前年度に比較して 4 億 4,738 万 5 千円、率にして 6.2%の減少となっておりますが、これは、主に、都市構造再編集中支援事業補助金や障害者自立支援給付費負担金が増加したものの、保育所等整備交付金が減少したこと、及び新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金事業費補助金が皆減となったことによるものであります。

府支出金は、29 億 6,019 万 4 千円で、前年度に比較して 3,755 万 4 千円、率にして 1.3%の増加となっておりますが、これは、主に、参議院議員通常選挙費負担金が皆減となったものの、障害者自立支援給付費負担金や土地改良事業費補助金が増加したことによるものであります。

財産収入は、3,322 万 1 千円で、前年度に比較して 815 万 6 千円、率にして 32.5%の増加となっております。

寄附金は、7 億 2,025 万円で、前年度に比較して 1,532 万円、率にして 2.2%の増加となっております。

繰入金は、20 億 4,361 万 4 千円で、前年度に比較して 1 億 8,915

万円、率にして 10.2%の増加となっておりますが、これは、主に、減債基金からの繰入金が皆減となったものの、財政調整基金や公共施設等整備基金からの繰入金が増加したことによるものであります。

繰越金は、10 万円で、前年度と同額を計上しております。

諸収入は、6 億 7,892 万 7 千円で、前年度に比較して 1 億 2,597 万 1 千円、率にして 22.8%の増加となっておりますが、これは、主に、ボートレース事業収入が増加したことによるものであります。

市債は、22 億 8,345 万 6 千円で、前年度に比較して 8 億 2,197 万 4 千円、率にして 26.5%の減少となっておりますが、これは、主に、岸和田市貝塚市斎場施設整備事業債や J R 東貝塚駅バリアフリー化設備整備事業債が皆増となったものの、庁舎整備事業債が減少したこと、及び学校施設整備事業債（中学校）が皆減となったことによるものであります。

② 歳出の目的別（別表 3 参照）

次に、歳出について目的別にご説明いたします。

第 1 款 議会費

議会費の予算総額は、2 億 5,634 万 8 千円で、前年度に比較して 1,352 万 9 千円、率にして 5.0%の減少となっております。

第2款 総務費

総務費の予算総額は、43 億 1,110 万 5 千円で、前年度に比較して 5 億 6,562 万 7 千円、率にして 11.6%の減少となっておりますが、これは、主に、新庁舎整備事業費や新庁舎情報ネットワーク構築事業費が皆減となったことによるものであります。

第3款 民生費

民生費の予算総額は、166 億 8,067 万 1 千円で、前年度に比較して 7 億 3,437 万 1 千円、率にして 4.2%の減少となっておりますが、これは、主に、障害者自立支援給付事業費や後期高齢者医療制度事業費が増加したものの、公立認定こども園改修事業費が皆減となったこと、及び民間保育所等整備事業費が減少したことによるものであります。

第4款 衛生費

衛生費の予算総額は、43 億 8,658 万 6 千円で、前年度に比較して 7 億 2,857 万 6 千円、率にして 19.9%の増加となっておりますが、これは、主に、新型コロナウイルスワクチン接種事業費が減少したものの、岸和田市貝塚市斎場整備事業費が皆増となったことによるものであります。

第5款 労働費

労働費の予算総額は、2,396万6千円で、前年度に比較して72万5千円、率にして3.1%の増加となっております。

第6款 農林水産業費

農林水産業費の予算総額は、2億7,433万2千円で、前年度に比較して440万1千円、率にして1.6%の減少となっておりますが、これは、主に、土地改良施設整備事業費が増加したものの、泉州東部区域農用地整備事業費が皆減となったことによるものであります。

第7款 商工費

商工費の予算総額は、2億5,445万1千円で、前年度に比較して5,934万3千円、率にして30.4%の増加となっておりますが、これは、主に、観光活性化事業費が増加したこと、及び企業誘致推進事業費が皆増となったことによるものであります。

第8款 土木費

土木費の予算総額は、33億9,501万9千円で、前年度に比較して5億8,439万5千円、率にして20.8%の増加となっておりますが、これは、主に、J R東貝塚駅バリアフリー化整備推進事業費や二色浜駅

前広場等整備事業費が皆増となったことによるものであります。

第9款 消防費

消防費の予算総額は、12億5,536万5千円で、前年度に比較して3,375万2千円、率にして2.6%の減少となっておりますが、これは、主に、防災備蓄拠点倉庫整備事業費が皆増となったものの、新庁舎防災設備構築事業費や避難所空調設備整備事業費が皆減となったことによるものであります。

第10款 教育費

教育費の予算総額は、29億7,947万2千円で、前年度に比較して3,078万1千円、率にして1.0%の減少となっておりますが、これは、主に、義務教育学校設置にかかる小学校管理事業費（臨時）が増加したものの、中学校屋内運動場空調設備設置及び照明LED化事業費が皆減となったことによるものであります。

第11款 公債費

公債費の予算総額は、26億8,439万9千円で、前年度に比較して9,420万円、率にして3.6%の増加となっております。

第 12 款 諸支出金

諸支出金の予算総額は、487 万 3 千円で、前年度に比較して 1 万 3 千円、率にして 0.3%の増加となっております。

第 13 款 予備費

予備費の予算総額は、1,000 万円で、前年度と同額を計上しております。

③ 歳出の性質別（別表 4 参照）

次に、歳出について性質別にご説明いたします。

人件費につきましては、前年度に比較して 1 億 1,673 万 8 千円の増加となっておりますが、これは、主に、退職手当が減少したものの、給料や職員手当等が増加したことによるものであります。

物件費につきましては、前年度に比較して 5 億 7,107 万 9 千円の減少となっておりますが、これは、主に、新型コロナウイルスワクチン接種事業費や電算システム運用事業費が減少したことによるものであります。

維持補修費につきましては、前年度に比較して 2,867 万 8 千円の増加となっておりますが、これは、主に、公園緑地維持管理事業費が増加したことによるものであります。

扶助費につきましては、前年度に比較して 1,605 万 9 千円の減少となっておりますが、これは、主に、障害者自立支援給付事業費が増加したものの、保育所等支援事業費や児童手当給付事業費が減少したことによるものであります。

補助費等につきましては、前年度に比較して 6,250 万 8 千円の増加となっておりますが、これは、主に、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金給付事業費が皆減となったものの、岸和田市貝塚市清掃施設組合負担金が増加したこと、及び出産・子育て伴走型相談・経済支援事業費が皆増となったことによるものであります。

投資的経費につきましては、前年度に比較して 1 億 1,348 万 2 千円の増加となっておりますが、これは、主に、新庁舎整備事業費や中学校屋内運動場空調設備設置及び照明 L E D 化事業費が皆減となったものの、岸和田市貝塚市斎場整備事業費や J R 東貝塚駅バリアフリー化整備推進事業費が皆増となったことによるものであります。

公債費につきましては、前年度に比較して 9,420 万円の増加となっております。

積立金につきましては、前年度に比較して 1 億 3,170 万円の増加となっておりますが、これは、主に、職員退職手当基金積立事業費が皆増となったことによるものであります。

繰出金につきましては、前年度に比較して 1 億 2,680 万 3 千円の増

加となっておりますが、これは、主に、後期高齢者医療制度事業や国民健康保険事業への繰出金が増加したことによるものであります。

貸付金につきましては、前年度に比較して 218 万円の減少となっております。

予備費につきましては、前年度と同額を計上しております。

3. 国民健康保険事業特別会計予算の概要

予算総額は、100 億 2,588 万 2 千円で、前年度に比較して 2 億 112 万円、率にして 2.0%の減少となっておりますが、これは、保険給付費等が減少したことによるものであります。

4. 財産区特別会計予算の概要

予算総額は、9 億 2,494 万 9 千円で、前年度に比較して 314 万 4 千円、率にして 0.3%の増加となっております。

5. 介護保険事業特別会計予算の概要

予算総額は、78 億 3,381 万 8 千円で、前年度に比較して 3,618 万 3 千円、率にして 0.5%の減少となっておりますが、これは、地域支援事業費が増加したものの、保険給付費が減少したことによるもので

あります。

6. 後期高齢者医療事業特別会計予算の概要

予算総額は、13 億 3,479 万円で、前年度に比較して 5,559 万 7 千円、率にして 4.3%の増加となっておりますが、これは、後期高齢者医療広域連合納付金等が増加したことによるものであります。

7. 水道事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、収入において、給水収益の減少を見込むものの、受託工事収益の増加等により、前年度と比較して 2,810 万 9 千円、率にして 1.4%の増加を見込み、支出では、受水費や企業債利息の減少を見込むものの、動力費や減価償却費の増加等により、前年度と比較して 6,612 万 8 千円、率にして 3.1%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は 8,960 万 4 千円の赤字となり、前年度と比較して 3,801 万 9 千円、赤字額が増加する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、企業債や工事納付金の減少等により、前年度と比較して 2,283 万 1 千円、率にして 6.7%の減少を見込み、支出では、企業債償還金、整備事業費の増加等に伴う建設改良費の増加により、前年度と比較して 4,244 万 8 千円、率にし

て 4.7%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、6 億 2,610 万 2 千円の不足となり、前年度と比較して 6,527 万 9 千円不足額が増加する見込みであります。

8. 下水道事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、収入において、他会計補助金等の減少を見込むものの、下水道使用料、雨水処理負担金等の増加により、前年度と比較して 1,872 万 2 千円、率にして 0.8%の増加を見込み、支出では、資産減耗費、企業債利息等の減少を見込むものの、ポンプ場費、流域下水道維持管理負担金、減価償却費等の増加により、前年度と比較して 7,811 万 6 千円、率にして 3.3%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、561 万 3 千円の黒字となり、前年度と比較して 5,939 万 4 千円、黒字額が減少する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、企業債、他会計出資金、他会計補助金の減少を見込むものの、国庫補助金、受益者負担金の増加により、前年度と比較して 1 億 6,546 万円、率にして 7.2%の増加を見込み、支出では、流域下水道建設負担金、企業債償還金で減少を見込むものの、管路建設費、ポンプ場建設改良費等の増加に伴う建設改良費の増加により、前年度と比較して 2 億 2,878 万円、率にして 7.2%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、9 億

5,365 万 6 千円の不足となり、前年度と比較して 6,332 万円、不足額が増加する見込みであります。

9. 病院事業会計予算の概要

収益的収支につきましては、少なくともコロナ禍前の水準の患者数を確保するとともに、新型コロナウイルス患者への対応が一定継続するものとして予算計上しております。収入においては、病院全体の病床利用率を、令和 5 年度 73.6%とコロナ禍前の水準で想定し、入院収益は、前年度と比較して 2 億 2,829 万 3 千円、率にして 5.8%の増加を見込んでおります。なお、令和 4 年 10 月に看護職員処遇改善評価料が創設されたことに伴い、これを活用して、令和 5 年 4 月から当院看護職員の処遇改善を計画しており、入院収益に当該評価料の見込額 3,970 万 8 千円を含めて計上しております。外来収益については、前年度と比較して 4 億 2,940 万円、率にして 17.2%の増加を見込んでおります。収入全体では、前年度と比較して 6 億 4,700 万 7 千円、率にして 8.7%の増加を見込んでおります。なお、新型コロナウイルス感染症患者等受入医療機関に対する空床補償補助金につきましては、5 類感染症への検討が進められており、令和 5 年度予算では、令和 4 年度と同様、補助金収入としては見込んでおりません。

支出では、常勤医師や当直体制を整備するための薬剤師等の増員の

ほか、看護職員の処遇改善に伴う給与費の増加、抗がん剤治療等の増加に伴う材料費の増加のほか、光熱水費、委託料等の経費の増加等により、前年度と比較して4億5,821万5千円、率にして5.8%の増加を見込んでおります。以上により、収支差引額は、2億8,707万1千円の赤字となりますが、前年度と比較して1億8,879万2千円、赤字額が縮小する見込みであります。

資本的収支につきましては、収入において、建設改良費における起債対象事業の増加に伴い、企業債が増加すること等により、前年度と比較して7,156万円、率にして9.0%の増加を見込み、支出では、企業債償還金の減少を見込むものの、マンモグラフィー装置、放射線治療周辺機器、臨床検査機器、診療部門システムの更新や診療案内表示システムの導入等、建設改良費の増加により前年度と比較して1億1,591万6千円、率にして9.9%の増加を見込んでおります。

以上により、収支差引額は、4億2,949万4千円の不足となり、前年度と比較して4,435万6千円、不足額が増加する見込みであります。